

次世代の情報化と環境問題研究会 発足のご案内



1. 発足の主旨

人類の課題である地球温暖化の防止については、昨年12月のCOP21(地球温暖化防止条約第21回締約国会議)において、全ての国が参加する2020年以降の地球温暖化防止の枠組み「パリ協定」が採択され、世界的に環境問題の取り組みについて新たな時代に入ったことが伺えます。

一方我が国は、被災地の復興・地域づくりが課題となるほか人口減少や高齢化、グローバル化が急速に進む中で、社会保障費の増加や財政赤字、地域経済の衰退・過疎化、国際競争の激化等経済・社会的課題を抱えています。

このため、安全で、安心して豊かに暮らすことのできる社会づくりが求められています。こうした中において、今日、情報の活用・共有においてビッグデータの活用等の情報化が目覚ましく進んでいます。

今後は発展する情報化(「次世代の情報化」)は、技術の高度化だけでなく情報の処理・活用・共有により、企業行動の在り方、日々の暮らし方や社会経済システムまで変える大きな力を秘めており、環境問題や社会問題の解決に繋がることが考えられます。

日本環境倶楽部は、発足後20年を経過しこの間、時代の要請を受け、研究会、セミナー開催、官・企業・市民等とのネットワーク構築による情報の共有と意見の交換など、環境問題の解決のため重要な役割を果たしてまいりました。

本研究会は、このような日本環境倶楽部の役割を踏まえ、持続可能な社会の実現に資するため、次世代の情報化と環境問題・社会問題との関係、情報化の望ましい在り方の指針を示すことを目指します。

2. 研究テーマ (以下は候補です)

2-1 今後の環境問題・社会問題で新たな情報化がその問題の改善・解決に関連するもの

【少子高齢化】

労働者不足、生活費・福祉・医療費の増加、特別災害対策、一人住まい対策、医療・福祉設備の充実、地域社会の施策、などと情報化との新たな関連

【過疎化】

公共費負担の増加、公共施設・設備の稼働率の低下と不便差の増大、運営の行きづまり、地域の活性化、復興に情報化の街づくりが重要

【防災】

自然災害、地震・津波・風水害・火山噴火に対する防災対策、人災に対する危機管理・人災の起こりにくい社会活動の推進、情報共有・管理の充実

【医療】

感染症対策、精神疾患・重度の患者に対する対応、地域医療・救急医療体制の充実、医薬品の開発、医療イノベーションの推進、情報化の遅れによる環境との課題

【福祉】

福祉設備・人材確保・経費増に対する対策、情報化と市民力の活用、地域福祉社会の構築

【個人情報管理】

マイナンバー制は、国全体の管理の体系化等多く期待が寄せられる反面、個人情報が悪用される、犯罪の増加が考えられる、この防止のための管理と対策が重要

【環境・エネルギー・ICT】

地球温暖化防止のための施策の中心になるもので、家庭、企業、公共施設あらゆる場において、省エネ・エネルギーイノベーションの効果が期待される。

2-2 新たな情報化で環境問題・社会問題に関連するもの

【ビックデータ】

情報の活用の本格的、次世代の情報化推進役となりうるもので、情報社会の充実により、経済、社会活動におけるデータのビックなデータ集約が可能となり、更に経済社会活動を活性化させるための重要なツールとなり得る

【IoT】

ロボットに変わり一人住まいの高齢者の生活行動を監視する実験、高速道の監視、駅ホームの防災扉、小型化無線機ドローンなどに使われ今後、防災危機管理などに普及され社会活動の発展に貢献されるものであり、環境への影響は大きい、今後情報化と環境との関連が多方面で発生し注目すべき項目

【マイナンバー】

システム開発により様々な利点効果が期待されている、特に環境面では、個人情報レベルの情報管理が体系的に可能になり、今後の情報化の最も重要なものになる、環境問題と多くの関連もあり関心は高い反面、個人情報が悪用され犯罪の多発が想定され、管理と保護が重要。

【人工知能・ロボット】

人工知能の研究が進み様々なロボットの開発が進んでおり数年後は専門分野で人間に代わるロボットにより人間が使われる時代が予想される。また防災、高齢者等に対する活動支援など環境面で大きな貢献が可能。

【情報機器の超小型化】

情報化の推進・進展により機器の高度化、超小型により、更に新たな分野での活用さが期待される。環境面では高齢者の生活・行動を支援する情報機器として期待される。

次世代の情報化は、情報の処理を中心に発展してきたものから、情報の共用、活用が中心となり環境との関わりが更に多くなり研究テーマとして重要。

3. 研究会の構成と活動方法

- 法人全体の研究会活動は、委員会（アドバイザリーボード）と個々の研究会で構成されます。
- 研究会は、主査、副主査、研究員で構成されます。
- 会員の皆様には、研究会に研究員としてご参加頂きます。

- 本研究会の具体的な活動計画は委員会と連携しつつ研究会において決定します。
- 研究会は定期的な会合のほか、メール等研究員相互のコミュニケーションにより推進されます。

- 研究会入会（参加）の費用は無料です。（当法人会員が原則です、非会員は入会頂きます）
- 参加の為の経費（交通費等）は会員様ご負担です。
- 活動成果は法人に帰属しますが、研究会参加会員の皆様の活用は自由です。また、セミナー開催などで会員に、参加会員の名称とともに報告、内外に情報発信します。

4. 研究会参加のお申し込み方法（お問い合わせ先）

ご参加希望の会員様は

（1）企業・法人名（個人の場合は個人名）

（2）研究参加者（研究員）のご氏名、勤務先住所、所属、役職、メールアドレス、を以下までご連絡ください。なお、お問い合わせも同様の宛先までお願いいたします。

宛先；特定非営利活動法人日本環境倶楽部 次世代の情報化と環境問題研究会事務局

メールアドレス：kankyouto@kankyoclub.or.jp

住所：東京都豊島区東池袋 2-60-2 池袋パークハイツ2F 電話：03-6869-9886

研究会事務局（法人理事；横山、吉岡、法人事務局；蜂屋）